

学位論文審査の結果の要旨

審査区分 ① 課 ・ 論	第 604 号	氏 名	福 澤 至
審 査 委 員 会 委 員	主査氏名	齊 藤 功	
	副査氏名	宮 崎 英 士	
	副査氏名	安 徳 恭 彰	
<p>論文題目  <b>Re-employment of people with chronic stroke: a single-centre retrospective study</b>            (慢性期脳卒中患者の再就労について：単一施設における後方視的研究)</p> <p>論文掲載雑誌名  <b>Australian Occupational Therapy Journal</b></p> <p>論文要旨            申請者は、脳卒中患者の再就労の有無に着目し、病院からの退院時に再就労することができず、障害者支援施設で再就労に向けた訓練を受けた脳卒中後の患者を後方視的に検討することにより、再就労に関連する要因について分析を行った。            本研究の対象は 2011 年 4 月から 2016 年 3 月まで障害者支援施設&lt;にじ&gt;から退所した 150 人の脳卒中後の利用者であった。障害者支援施設入所時に記録された利用者の背景因子や日常生活の活動(ADL、機能的自立度評価法、以下 FIM)および身体機能(6分間歩行距離、握力)に関するデータを診療録から後方視的に収集し、作業療法後の再就労と関連する要因を検討した。            結果、ロジスティック回帰分析ステップワイズ法を用い、以下の 4 つの因子が再就労と有意に相関していることを明らかにした。すなわち、(1)FIM(下半身更衣) (<math>p &lt; 0.001</math>)、(2)FIM(整容) (<math>p = 0.002</math>)、(3)婚姻状態(<math>p = 0.007</math>)、および(4)FIM(問題解決) (<math>p = 0.028</math>)であった。また本施設では自動車運転免許の再取得を目指す訓練が行われており、免許の再取得の有無と再就労の有無についても分析を加えた。その結果、免許を再取得できた利用者は再取得できなかった利用者よりも有意に多く再就労していた。ロジスティック回帰分析ステップワイズ法により、免許再取得と以下の 3 つの因子、(1)FIM問題解決項目 (<math>p = 0.002</math>)、(2)FIM 下半身更衣項目 (<math>p = 0.011</math>)、および(3)居住区域 (<math>p = 0.038</math>)と関連を認めた。            本研究から、病院からの退院時に復職できなかった慢性期脳卒中後の患者の再就労に関連する因子を明らかにすることができた。さらに、本研究より作業療法における日常生活活動の自立促進と家族や居住地域の背景情報を持つことは再就労への支援に役立つ可能性が示唆されたと考察した。            本論文は脳卒中後の再就労を促進する要因を明らかにした研究であり、脳卒中患者の再就労支援に対する社会的に意義のある研究と考えられ、審査員の合議により学位論文に値すると判定した。</p>			

# 学 位 論 文 要 旨

氏名 福澤 至

## 論 文 題 目

Re-employment of people with chronic stroke: a single-centre retrospective study.....

(慢性期脳卒中患者の再就労について：単一施設における後方視的研究).....

## 要 旨

### 緒言

再就労は、脳卒中後の患者のリハビリテーションの重要な目標である。しかし、病院からの退院時に復職できなかった脳卒中後の患者に対して、再就労に向けて作業療法士がどのような訓練を提供すべきかに関する研究はほとんどなされていない。本研究では、病院からの退院時に再就労することができず、障害者支援施設で再就労に向けた訓練を受けた脳卒中後の患者を後方視的に検討し、再就労に関連する因子を抽出した。

### 方法

対象は 2011 年 4 月から 2016 年 3 月まで障害者支援施設<にじ>から退所した 150 人の脳卒中後の利用者である。入所時に記録された利用者の背景因子や日常生活の活動 (ADL、機能的自立度評価法、以下 FIM) および身体機能 (6 分間歩行距離、握力) に関するデータを診療録から後方視的に収集した。ロジスティック回帰モデルにより、作業療法後の再就労と関連する要因を検討した。

## 結果

ロジスティック回帰分析ステップワイズ法により、以下の4つの因子が再就労と有意に相関していることが明らかになった；(1) FIM（下半身更衣）（ $p < 0.001$ ）、(2) FIM（整容）（ $p = 0.002$ ）、(3) 婚姻状態（ $p = 0.007$ ）、および(4) FIM（問題解決）（ $p = 0.028$ ）。

また本施設では自動車運転免許の再取得を目指す訓練が行われている。免許を再取得できた利用者は再取得できなかった利用者よりも有意に多く再就労していた。ロジスティック回帰分析ステップワイズ法により、免許再取得と以下の3つの因子との有意な相関が認められた；(1) FIM 問題解決項目（ $p = 0.002$ ）、(2) FIM 下半身更衣項目（ $p = 0.011$ ）、および(3) 居住区域（ $p = 0.038$ ）。

## 結語

単一施設における後方視的研究により、病院からの退院時に復職できなかった慢性期脳卒中後の患者の再就労に関連する因子を明らかにした。作業療法における日常生活活動の自立促進と家族や居住地域の背景情報を持つことは再就労への支援に役立つ可能性が示唆された。

---